

2013年5月16日
グローバル・フォーラム事務局

グローバル・フォーラムは、民主主義と経済発展のための機構（G U A M）との共催により、5月16日（木）午後1時より午後3時まで、日本国際フォーラム会議室を会場として、「日・G U A M対話：民主主義と経済発展のための日・G U A M関係の展望」を開催したところ、その出席者と議論の概要は、次のとおりであった。

1. 出席者

下記11名のパネリストに加え、計26名が出席した。

【G U A M側パネリスト5名】

ヴァレリー・チェチェラシヴィリ (Valeri CHECHELASHVILI)	G U A M事務局長
ダヴィド・ジャラガニア (David JALAGANIA)	グルジア外務次官
ガヤ・マムマドフ (Gaya MAMMADOV)	アゼルバイジャン外務省国際安全保障局長
アンドレイ・ポポフ (Andrei POPOV)	モルドバ外務・欧州統合次官
オレクサンドル・ダニレイコ (Oleksandr DANYLEIKO)	ウクライナ外務省経済協力局長

【日本側パネリスト6名】

伊藤 憲一	グローバル・フォーラム執行世話人
六鹿 茂夫	静岡県立大学教授
引原 毅	外務省欧州局参事官／G U A M担当日本外務省特別代表
平林 博	グローバル・フォーラム常任世話人
石川 薫	日本国際フォーラム研究本部長
渡邊 啓貴	東京外国語大学教授

(プログラム登場順)

2. 議論の概要

「日・G U A M対話：民主主義と経済発展のための日・G U A M関係の展望」は、「開会挨拶」「基調講演」「討論・コメント」「自由討論」の順で開催されたが、その概要は次のとおりであった。

(1) 開会挨拶 伊藤憲一（グローバル・フォーラム執行世話人）

日本政府は2006年から「自由と繁栄の孤」をその外交理念として掲げ、とくにG U A Mへの民主化支援および経済協力を重視してきた。2007年からは「G U A M+日本」会合を実施している。他方、グローバル・フォーラムは民間ベースで2005年よりすでに4回にわたり黒海経済協力機構（B S E C）との間で「日・黒海地域対話」を実施してきた。今回グローバル・フォーラムが「日・G U A M対話」を実施することになったのは、このような官民双方のベースでの日本のG U A M4か国に対する関心の増大を反映するものである。

(2) 基調講演

(イ) ヴァレリー・チェチェラシヴィリ（G U A M事務局長）

本日は大変貴重な機会を頂き心から感謝している。伊藤執行世話人のご指摘のとおり、G U A Mは1997年に設立されたが、なぜグルジア、ウクライナ、アゼルバイジャン、モルドバの4カ国なのか、については疑問に思うかもしれない。しかしその理由はシンプルで、これら4カ国は共に地政学上の重要地域に属しており、かつ共通の問題意識を有し、同じ外交課題に直面しているからに他ならない。1カ国だけでは非力だが、4カ国が団結した場合の外交力は非常に大きい。G U A Mにとって、日本はもっとも重要なパートナーの1国であり、観光のみならず、農業、交通、エネルギーなど様々な分野での協力関係を構築していきたい。

(ロ) 六鹿茂夫（静岡県立大学教授）

EU、中国、韓国などが対露関係を配慮してG U A Mとの関係強化に及び腰であったことを想起すると、2007年に日本外務省が「G U A M+日本」会合の開催を決断したことは高く評価できる。G U A Mの戦略的重要性、EUの金融財政問題、「アラブの春」によるEUの地中海重視策、アメリカ外交のアジア太平洋へのシフトに加え、近年緊迫度を増すアジア太平洋情勢やプーチン政権が国内外の諸困難に直面していることなどを勘案すると、日本とG U A Mの信頼関係および相互理解の強化はこれまで以上に重要性を増していると言える。

(ハ) ダヴィド・ジャラガニア（グルジア外務次官）

グルジアは今年、G U A Mの議長国となったが、今年目標はより具体的なプロジェクトを企画し、それらを実際に推進することである。特に、エネルギー、観光分野、さらには交通網の整備などを重点的に行う予定であるが、これらのプロジェクトを効果的に実施する上で日本との協力は欠かせない。他方、昨今においては非政府組織の活動が国際関係上きわめて重要となっており、これはG U A Mの発展と民主化促進にとっても言えることである。この観点から、本日グローバル・フォーラムとの対話が実現したことの意義は小さくない。

(二) 引原毅 (外務省欧州局参事官/GUAM担当日本外務省特別代表)

約6ヶ月前にGUAM担当日本外務省特別代表に就任した。GUAMとの協力関係の構築は、安倍総理の考え方やその外交政策に直結している。安倍政権は鳥瞰的に世界全体を捉え、自由や民主主義等の普遍的価値を追求している。これはGUAMの設立目的に合致しており、日本とGUAMの関係は、今般のような会合の機会を通して、より積極的に強化を図っていききたい。

(3) 討論・コメント

(イ) ガヤ・ママドフ (アゼルバイジャン外務省国際安全保障局長)

日本とGUAMの関係強化は重要だが、GUAMの中でもアゼルバイジャンは、いわば新しい途上国であり、まずは開発・発展が重要な課題である。日本人のGUAMに対する興味関心を更に高めていくため、政府間での対話だけでなく、世論啓発や教育分野における協力も強化してゆきたい。

(ロ) 平林博 (グローバル・フォーラム常任世話人)

GUAMは地政学上、重要な地域であるが、その地政学的意義としては、ロシアとの関係が、日本にとっては重要であり、GUAMが今後ロシアとの関係構築をどのように図ろうとしているのかについて知りたい。

(ハ) アンドレイ・ポポフ (モルドバ外務・欧州統合次官)

グローバル化が進む今日の世界において、協力の持つ意義は益々高まっているが、今後はGUAMと日本の協力関係においても、インターネットを用いるなどの工夫をして、重層的に様々なレベルで対話を推進する必要がある。ロシアとの関係について言えば、ロシアは付き合うのが難しい国の一つだが、ロシア不在の場でロシアを批判しても建設的ではない。ロシアとの共通利益を模索し、それを実現することが重要である。

(ニ) 石川薫 (日本国際フォーラム研究本部長)

GUAMの地政学的重要性については、これまでの議論に加え、世俗主義国であるトルコとの近接性も指摘したい。またウェストファリア型の主権国家システムとグローバリゼーションに関する議論を踏まえれば、GUAMの現在の試みは「地域協力 (regional cooperation)」なのか、「地域的浸透 (regional osmosis)」なのか、興味深いところである。他方、民主主義について言えば、民主主義の担い手 (一般の人々) への教育もきわめて重要であることを指摘しておきたい。

(ホ) オレクサンドル・ダニレイコ (ウクライナ外務省経済協力局長)

自由貿易の推進や投資環境の整備は重要であり、GUAMは欧米などの西側諸国との貿易・投資協定のみならず、日本などの東側諸国との各種協定の締結にも興味を持っている。観光分野における日本との協力は、いわば「(成功が) 約束された分野」であると言えるが、今後はエネルギーや安全保障分野での協力も推進したい。

(ヘ) 渡邊啓貴 (東京外国語大学教授)

これまでの議論でも指摘されているが、日本とGUAMは共通の価値観、特に民主主義の価値観を共有していると言える。しかし、より実践的な側面に注目すれば、民主主義にも日本型や欧州型があり、その実体は異なる。GUAMはどのような形の民主主義を推進しようとしているのだろうか。その意味から、EUとの間で実施されている、民主主義的運営のオンブズマン制度、腐敗防止、司法制度の検証などの面での日本との協力も別な側面からの意味があると思われる。

(4) 自由討論

自由討論における注目すべき主な発言・討論内容については以下のとおり。

(イ) 今次における対話の意義はきわめて大きいと考える。それは内容もさることながら、政府関係者だけでなく、日本の著名な有識者や研究者との対話が実現しているからである。

(ロ) GUAMとロシアが今後の関係を如何に築いていくかは重要であるが、これはGUAM側の問題というより、ロシア側の問題であろう。つまり、ロシアが今後、国際的にどのような役割を果たそうとしているのかによって、GUAMとの関係のあり方も変わると思われるからである。

(ハ) モルドバとロシアとの関係は、他の中東欧諸国とロシアとの関係に比べ、前進的であるとの印象があるが、内実は異なっており、モルドバは未だそのステージに立っていない。モルドバとロシアの関係は、非対称的であり、例えばモルドバはその総貿易量のうち50%以上をロシアに依存している。

(文責在事務局)